

Adonis アドニス [ふくじゅ草]



北海道看護協会 北網支部ニュース
2018年9月 編集責任者：福田 尚子

北網支部では、研修会や交流会を通じて会員間の交流と連携を図り、地域住民のニーズに応えられるような支部活動を目指しています。今年度も支部ニュース「ふくじゅ草」を通して、支部活動の様子をお伝えします。今号では第35回看護研究会、働き続けられる職場づくり学習会のご報告と、支部企画研修「認知症高齢者ケア」の様子をご紹介します。

活動 報告

第35回看護研究会・働き続けられる職場づくり学習会
7月8日（日）北見赤十字病院 多目的ホールミント

「第35回看護研究会・働き続けられる職場づくり学習会」を7月8日開催し、110名が参加しました。「働き続けられる環境づくり」をテーマに学習会も行いました。

看護研究会では、9題の演題発表がありました。演題の多くが高齢者に関わる内容であり、高齢社会に看護師としてどう看護していくのか、質疑応答が活発にされており今後につなげられる内容でした。



<参加者としての感想>

普段の看護では、高齢者が対象となることが多いのが実情でした。今回、高齢者に対する演題が多く、普段の業務でも同じ悩みや疑問を持っていたので、研究発表の内容はとても勉強になりました。明日からの看護にいかしていきたいと思います。

<発表者としての感想>

同じ地域の看護師が集まり、課題に対する取り組みや、大切にしている看護観を語り合えたことはとても貴重な経験となりました。皆さんの声に元気をもらい、明日からの実践にやる気ができました。

研修 Report

支部企画研修「認知症高齢者ケア」
8月4日（土）

認知症高齢者ケア研修会に参加して

JA 北海道厚生連 網走厚生病院 猪爪 美優姫

私は退院支援担当者として活動する中で、65歳以上の高齢者と関わる機会がとて多く、今回の研修で関わり方やケアに関しての学びを深めたいと考え参加しました。

認知症高齢者を理解するためには、病院では「患者」であっても地域では「生活者」として助け合い、自立した生活を送っている人であることを意識し関わる必要があると再認識しました。「患者」として見てしまうと、できない事や不安なことばかりに視点を置きがちですが、「生活者」としてとらえ、患者、家族ができることに着目し、持てる力を維持、向上できるように関わるのが重要だと学びました。

生活者としてみる視点の大切さを、研修に参加できなかった方や、支援に悩んでいる方に、退院支援の業務を通して伝えていきたいと思います。



お知らせ

- ・平成31年2月16日 会場：北見赤十字病院（予定）
- ・「三職能交流研修」
- ・「平成31年度北網支部大会」

次回掲載予定「五感を使ったフィジカルアセスメント」「施設間交流研修」参加レポート

編集後記

Adonis(アドニス)【ふくじゅ草】をホームページ上で掲載して6年目を迎えました。皆様にわかりやすく支部活動をお伝えできるよう今後も頑張っていきたいと思っております。急なお願いにも関わらず、研修参加のレポートを快くお引き受け下さった皆様ありがとうございます。そして今後も北網支部から皆様をお願いをするかもしれませんが、ご協力よろしくお願い致します。

北網支部広報委員：成瀬・龍田・村上